

復旧・復興は進展したが まだまだ課題は残る 「創造的復興」に向かう

防災・震災復興委員会(2020年度)

委員長／木村 恵司・徳植 桂治

(インタビューは4月22日に実施)

東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)から10年。経済同友会はこの間7回の提言と「IPPO IPPO NIPPONプロジェクト」による支援に加え、「女川町人材研修プログラム」への協力、復興庁への人材派遣などの官民連携による復興支援に取り組んできた。発災直後の震災復興PT(プロジェクト・チーム)の設置(2011年4月)から10年間委員長を務めた木村恵司委員長と、2016年度から就任した徳植桂治委員長が、これまでの復旧・復興と今後への思いについて語った。

10年間で得た教訓や知見を報告書で次世代のためのアーカイブとして

木村 私は2011年3月の発災直後に被災地に行き、大きなショックを受けました。同時に人口減少や過疎化の問題を抱える東北にとって、復興は、ピンチをどうチャンスに変えるのか、ということでもあると思いました。現在も地震や台風・豪雨などの自然災害が発生し、広範囲に甚大な被害をもたらしています。今後も巨大地震などの発生が懸念される中、東日本大震災の10年間の復旧・復興過程で得られた教訓や知見を、後世に引き継ぐことができるアーカイブとして残していけるように、不断の努力を続ける必要があります。

経済同友会の支援活動の中で、私には「女川町人材研修プログラム」が印象深いものでした。会員企業が女川町から毎年10～20人の地元企業の社員や町役場職員を研修に受け入れ、延べ107人が参加しました。女川町では、多くの住民が戻ってこないのが悩みだそうです。研修を受けてスキルアップした人たちが地域の発展のために活躍してく

れることを期待しています。

徳植 弊社の大船渡工場は、チリ地震の経験もあって新しい設備こそ高台にありましたが、その他の設備が津波で大きな被害を受けました。その復旧の経験もあって、経済同友会の活動を通じて私なりに復興に向けて何かお手伝いできないかと思い、委員長に就任しました。現地を何度も視察しましたが、経営者自身が被災地に入り、地元の人に寄り添ってきたことは、大きな貢献になったのではないかと思います。

「IPPO IPPO NIPPON プロジェクト」では、被災した工業高校に実習機材を提供しました。国の復旧に関する各種補助金は「原形復旧」が原則であり、災害前と同程度の機材の購入しか認められませんでした。経済同友会では、被災した工業高校の実習授業のニーズに応じた機材を用意しました。この活動では、高校生たちが目を輝かせて喜んでくれたことが印象的でした。経済界が頑張っているのだから自分たちも頑張ろう、という機運が生まれたきっかけになったのではないかと考えています。

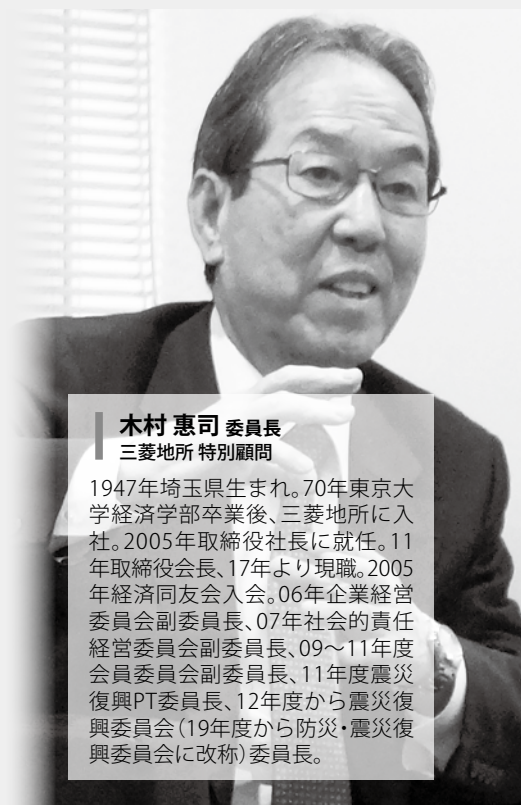
復興はまだ程遠い まちづくり、産業再生への取り組みを

木村 10年間で復旧は大きく進展したといえます。しかし、産業の再生、被災者の心のケアや生活支援など、依然多くの課題が残されており、十分に人が戻っていない地域も存在します。

復興はまだ道半ばで、これまで以上に若い人や多様な英知・知見を集めて次の復興ステップへと進むべきです。

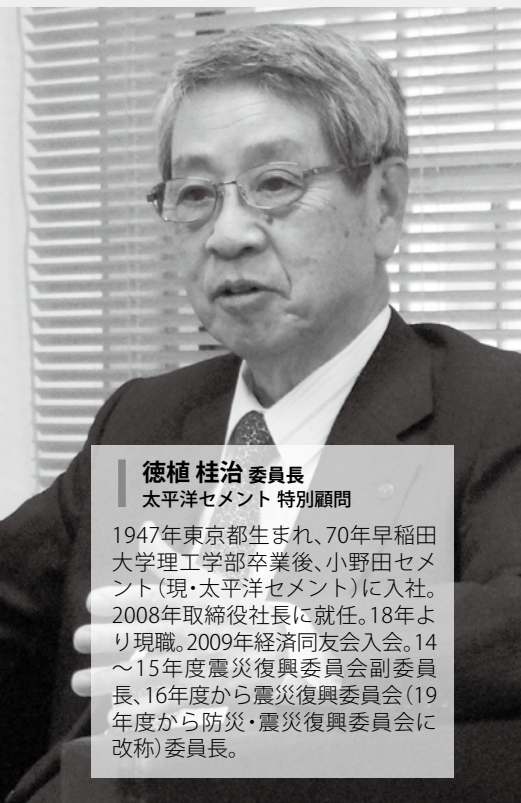
報告書では、福島イノベーション・コースト構想の推進や国際リニアコライダー(ILC)の東北への誘致にも言及しています。実現すれば海外からの研究者の来県や企業の進出などが期待できます。今後は官民連携による産業復興の取り組みが不可欠です。

徳植 復興事業により公共インフラの整備は進んでいて、未来に向けた土台はできつつあります。「だから今度は地元の人が頑張る番」と言うのは簡単ですが、外からサポートすることも重要です。産業再生やまちづくりは数十年単位で考えるべきものであり、企業が産業再生に貢献できる余地はいろいろあ



木村 恵司 委員長
三菱地所 特別顧問

1947年埼玉県生まれ。70年東京大学経済学部卒業後、三菱地所に入社。2005年取締役社長に就任。11年取締役会長、17年より現職。2005年経済同友会入会。06年企業経営委員会副委員長、07年社会的責任経営委員会副委員長、09～11年度会員委員会副委員長、11年度震災復興PT委員長、12年度から震災復興委員会(19年度から防災・震災復興委員会に改称)委員長。



徳植 桂治 委員長
太平洋セメント 特別顧問

1947年東京都生まれ、70年早稲田大学理工学部卒業後、小野田セメント(現・太平洋セメント)に入社。2008年取締役社長に就任。18年より現職。2009年経済同友会入会。14～15年度震災復興委員会副委員長、16年度から震災復興委員会(19年度から防災・震災復興委員会に改称)委員長。

るはずです。弊社は大船渡でバイオマス発電を始めたほか、福島の南相馬では作物をメタン発酵させて熱源に利用するといった取り組みを進めています。

民間企業の「共助」と新しい考え方・取り組み・世代

木村 今後災害はどこでも起こり得ることを考えれば、各企業はその対策を立てておくべきです。自助として災害対策を行っている企業は多いと思いますが、他企業との連携による「共助」もさらに進めるべきです。激甚化・広域化する災害に対して、近隣企業や自治体、町内会などと相談して、共に対策を立てておく必要があります。社員の防災教育や避難訓練なども、日頃から取り組むことが重要です。

徳植 震災の経験を通じて各企業・産業の災害への関心や対応策は格段に進んだと評価しています。現在、働き方改革、雇用のあり方もダイナミックに変わっています。今後の復興については、新しい考え方、新しい取り組み、新しい世代という三つの「新しい」が重要になると思います。

報告書概要(5月14日発表)

東日本大震災の発災から10年を迎えて

震災から10年を経て、政府や民間部門の復興に向けた取り組みにより、インフラ復旧は概ね完了した反面、産業復興や被災者の心のケア・生活支援、地域コミュニティの再生など、依然として多くの課題が残されている。また、東日本大震災以降も、豪雨や台風などの自然災害が各地で発生し、首都直下型地震や南海トラフ地震の発生も懸念される中、今

後の防災・減災対策に不断の努力を重ねていくことが求められている。

今回、発災から10年の節目を迎えたことを受け、被災地に残された課題を整理するとともに、復旧・復興過程で得られた多くの教訓に基づき、今後の災害対応に向けた政府・自治体への要望と民間企業の取り組みを取りまとめた報告書を作成した。

被災地に残された課題と解決の方向性

インフラ復旧は概ね完了したものの、雇用機会につながる産業基盤を確立できていない被災地域では、特に人口減少・高齢化・過疎化が進んでいる。これからの復興の正念場であ

り、①持続可能なまちづくり、②産業の再生、③将来の基盤につながる産業基盤の確立に向けた継続的な取り組みが重要である。

今後の災害対応について

●基本的考え方

これからの災害対応には、人々を惹きつける魅力ある産業や生活基盤の速やかな構築という視点が求められる。そのためには「原形復旧」ではなく、新たな魅力を創出する「復興」に向けて、官民を挙げた新たな災害対応の枠組みを構築する必要がある。

●政府・自治体への要望

①災害対策の基本を創造的復興に改め、産業復興に向けた政策手段を拡充

災害対策基本法の基本理念を復旧にとどまらない創造的復興へ改め、産業復興に向けた政策手段の一層の充実を図る必要がある。

②産業復興に向けた官民連携の一層の充実

これまで以上に多様な民間人材を活用できるよう、副業・兼業による人材確保、復興庁や官民合同チームでの経験を有する人材のプーリングなどに取り組む必要がある。

③防災から復興まで一貫通貫で所管する省庁の創設

激甚化・広域化した自然災害が頻発する現状に照らせば、平素から各省庁の枠組みを超えて、防災から復興までを一括して担う専門組織の創設が求められる。事前の対策から災害発生直後の救援活動、復旧・復興事業に至る一連の政策対応を一元化することで、対応の迅速化や効率化を期待する。

④一層の自治体間連携の推進

大規模災害の場合、被災した市町村が単独で対応することは困難であり、他の地方自治体との連携が必要となる。平素から連携に取り組んでいた地方自治体ほど、大規模災害発生時もスムーズな対応を行っていることから、より多くの地方自治体で連携の取り組みが広がることを期待する。

⑤事前復興に向けた取り組み

大規模災害による被害を完全に防ぐことは不可能であるため、平時から復興の手順や進め方を決め、将来目標を検討する事前復興の取り組みが必要となる。

●企業として取り組むこと(自助・共助の加速)

①サプライチェーンマネジメントの強化

既存の枠組みにとらわれることなく、サプライチェーンの末端までを視野に入れて、BCPの不断の見直しを重ねていくことが重要である。

②訓練・研修の徹底と非常時の指揮命令系統の確立

経営者自らが率先して避難訓練に取り組み、多様な想定と訓練後の検証を重ねながら、社員をはじめとする多くの人々の安全確保に努める必要がある。

③経営者自身が変革を推進するリーダーシップを発揮

災害発生時に被害を最小限に食い止め、速やかに事業活動を再開する「レジリエンス」が重要であり、その担い手は経営者であることを自覚しなければならない。

④地域防災に向けた企業の貢献

災害時のスムーズな初動対応を可能とするため、日頃から関係者がコミュニケーションを取って連携する体制を構築していくことが企業にも求められる。

詳しくはコチラ

